

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 現代陶芸美術館推進費（環境整備）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail : c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 56,849千円 (前年度予算額) 2,420千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	2,420	0	0	0	0	0	0	0
要求額	56,849	0	0	0	0	0	0	56,849
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

○現代陶芸美術館施設の環境整備のための経費

【移動展示ケース内照明のLED化】

美術館における照明のLED化について、天井照明およびウォールケース内(R4完了)、蛍光灯用展示ケース(対象15ケース、R10完了予定)はすでに着手しているが、ハロゲンランプ用展示ケース(対象75ケース、該当箇所120か所)は未着手となっている。とくに、現在使用しているハロゲンランプについては、美術館等専用のものであり、数年のうちに廃盤となる可能性があり、その場合、ケースから作品に照明を当てることができなくなり、実質的に展示が困難となる。

【収蔵庫整理事業】

(ア) 現状

- ・開館以来20年余りの間に作品収集活動を重ねた結果、所蔵作品を保管する「収蔵庫A」が、満杯に近くなっている。
- ・大型作品・中型作品の一部を、庫内の通路や庫外にも置かざるを得ない状況になっている。
- ・特に大型作品については、主に庫内の前半部を保管エリアに当てているが、収納するスペースが無くなっている。
- ・令和2年度に、大型作品の収納スペースを増やすために、収蔵庫Aの前半部に新しい収納棚21台を設置したが、令和2年度以降の新収蔵作品によって、増やした収納スペースも埋まった。

(イ)課題

- ・今後も作品収集活動を継続するために、所蔵作品を保管するスペースを作り出す必要がある。
- ・所蔵作品を適切に管理し、展示事業等に活用するために、所蔵作品を移動しやすいスペースを確保する必要がある。
- ・上記のスペースを確保するためには、収蔵庫の増設が最も望ましいが、その前に、早急に可能な方法を検討し、実施する。
 - ①大型作品を館内またはセラミックパーク内(屋内・屋外)に展示
 - ②収蔵庫A内の整理(棚の高い部分での保管、梱包のコンパクト化等)
 - ③大型作品の館外の施設で保管

(2)事業内容

【移動式展示ケース内照明のLED化】

- 展示ケース用LED光源ボックスの取替(展示ケース26台(光源ボックス40台)
 - ・LED光源ボックス、同アダプター、同変換フィルター取替、既存ボックス処分

【収蔵庫整理事業】

(ア)収蔵庫A内等の整理

- ・収納棚の高い部分での保管も行うために、所蔵作品の配備を整理。
- ・高い棚からの作品移動を容易にする作業用備品を整備。
 - 足場台:高さ100~150cm程度、作業員2名が乗って作業できるもの
 - 荷物リフター:昇降高150cm程度、耐荷重500kg以上、手動式
- ・嵩ばっている梱包をコンパクトなものに切り替える。
- ・収蔵庫外に保管可能な作品(所蔵作品の一部、温湿度等の管理条件が厳しくない作品)を収納するために、館内の整理とスペース作りを行う。

(イ)大型作品の展示

- ・屋内展示:当館内またはセラミックパーク内
候補作品:国際陶磁器フェスティバル受賞作品等、若干数
⇒R5年度実施:2作品
- ・屋外展示:セラミックパーク内
候補作品:斎藤敏寿作品(23梱包)等、若干数
⇒R6年度実施:1作品

(ウ)大型作品の館外保管

- ・県有施設・県内施設、近隣倉庫での保管の可能性を調査し、館外保管を実施する。(美術品輸送業者の倉庫は、保管料が高額[1,650千円/月]で利用困難)
候補作品:田嶋悦子作品3点(90梱包)、徳丸鏡子作品1点(21梱包)、
井田照一作品1件(17梱包)
⇒R7年度収蔵の大型作品1点を、飛騨センターにて保管開始。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	92	作品展示関係調整、館外保管施設調査
消耗品費	50	ハロゲンランプ、事務用消耗品
修繕料	52,954	展示ケース用LED光源ボックス取替
役務費	60	通信運搬費
委託料	1,779	大型作品屋内外展示、収蔵庫内整理等
使用料	1,210	館外保管倉庫保管料
備品購入費	704	収蔵庫内作業用備品・油圧式高所作業台
合計	56,849	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

茨城県陶芸美術館：107台（LED済 0台） R6予算要求（91台更新：281,675千円）
愛知県陶磁美術館：87台（LED済 24台） R6・7LED化予定（21台：24,388千円）
滋賀県陶芸の森陶芸館：50台（LED済 3台） LED化検討中（時期未定）
兵庫陶芸美術館：48台（LED済 0台） LED化検討中（時期未定）
山口県萩美術館・浦上記念館：41台（LED済 26台） LED化未定

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

現代陶芸美術館設備等の環境整備を行い、常に適正な状態にする。

【移動式展示ケース内のLED化】

展示ケース用のハロゲンランプは近年中に製造中止が見込まれ、ハロゲンランプ使用的展示ケースのLED化を進めたい。複数年をかけて実施する場合、その間のハロゲンランプをあらかじめ購入する必要があり（寿命約1000h、1日8h使用で約半年）、短期間での実施が最も効率的である。

【収蔵庫整理事業】

所蔵作品の収納等スペースを令和6年度内に増やす。（大型作品の展示、収蔵庫内の整理）

大型作品を館外保管することについて、令和6年度内に調査・検討を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

美術館の設備、備品の環境整備を目的としており、指標を設定するには適していない。

(これまでの取組内容と成果)

令 和 4 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 5 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 6 年 度	○取組内容 ・高所作業台（油圧式電動リフト）を更新 ○成果 ・高所作業台を購入
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	美術館の環境整備事業であり、館が存在している限りには必須である。また、県民をはじめとする来館者にとって重要な美術館活動は展示であり、それに使用する展示ケース・照明を整備することも、美術館活動の展開のために必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 2	館の適正な環境整備が図られており事業の効果が現れているが、移動式展示ケースのLED化については、可能な限り早急に必要である。また、LED化により本来の風合いを見せることができ、来館者からの満足度も上がると思われる。 高所にある電球等の交換に必要な油圧式高所作業台についても職員の安全性を確保するために早急に必要である。 大型作品を施設内外に展示、館外施設での保管できれば、収納スペース（大型作品収納エリアの約1/3）を確保できる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	展示ケースに関しては、新規調達した場合、多額の費用を要するため、照明をLED化することによって経済面でも有効である。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

所蔵作品の収納スペースを確保する課題にとって、根本的な改善策は収蔵庫の増設であり、それまでの次善策は、大型作品の多くを館外施設で保管することである。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

美術館の環境整備は、美術館が存続している限り必要な事業であり、当館が県の重要な地場産業と連携し、現代の陶芸文化を発信していくためには、展示活動を支える設備等を整備することが不可欠である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	